

審議会等議事概要

令和6年度 第6回滝川市子ども・子育て会議 議事概要

日 時	令和7年2月10日（月曜日）午後2時30分～午後3時30分
開催場所	滝川市役所 5階 庁議室
出席者	栗井康裕会長、皆川あゆみ委員、猪股旬雄委員、鈴木敏之委員、種田貴志子委員、芳村元悟委員、山内祐子委員、濱本有未代委員、高谷富士雄委員 （欠席 原修二委員、福田朗委員、船奥保委員、齋藤真弘委員、佐藤幸恵委員、宮本賀子委員） 事務局：景由保健福祉部次長、井谷子育て応援課長補佐、高橋子育て応援課長補佐
議 事	1. 開 会 2. 報 告 （1）滝川市こども計画（案）意見募集の結果について ＜事務局より資料1に基づき説明 以下要旨＞ ●1月20日開催の第5回子ども・子育て会議にてご承認をいただいた「滝川市こども計画（案）」の意見募集を1月22日から2月4日にかけて行った。 ●その結果、こどもからは30件、大人からは10件のご意見をいただいた。 ●いただいたご意見とその回答につきましては、資料1・資料2のとおり ●こどもからはおおそ肯定的なご意見をいただいているが、公園を増やしてほしいといったご意見が多く寄せられた。公園については、数を増やすのは簡単ではないが、魅力ある公園づくりを行うことやこどもの居場所づくりを行うなどで対応したいと考えている。 ●このほか、高校を増やす、いじめ、不登校、通学路、放課後の居場所に関するご意見をいただいた。これらについてもおおそこの計画案の中で対応したいと考えている。 ●大人からは、放課後児童クラブや保育所の待機に関すること、居場所のこと、家計のこと、計画の表記に関すること、小児科のこと、不登校のことなど幅広いご意見をいただいた。 ●これらについては、この計画案の中で対応するものと、今後の議論の中で解決を目指していくこと、国や道の力を借りなければ解決できないこととして、回答を作成している。 ●このご意見に関する回答については、この会議終了後、ホームページにて公表したい。 会 長）それでは、報告に関する質疑を行う。質問意見などを求める。 会 長）こども達の意見が多く集まってよかった。 委 員）遊び場がほしいという意見は良いと思う。こども達からの意見は建設的に受け入れられると思うので、これからの会議の中でも気をつけて取り組んでいければと思う。 会 長）せっかくいただいた貴重な意見なので施策に反映できるようにしていただきたいと思うことと、市だけでは難しいことは国や北海道の力を借りなければならないこともあるし、もう少し狭く言うとそれぞれの担当部局や関係機関に対し、いただいたご意見を共有していただきながら、担当部局においても検討していただければと思う。

事務局) 今回いただいたご意見はすでに担当部局とは共有させていただいた。

委員) 直接関係ないかもしれないが、質問の中に保育所の入所に関するものがあるが、今でも保育所に入りにくい状況があるのか。

事務局) 全員がすぐに入所できる状況とはいえない。

委員) 他市に11月に入所の申し込みをして入所できなかったケースや、新年度で他市に入所の申し込みを行ったが、入所できるかどうか分からないというケースの話を聞いている。滝川市も同じような状況か。

事務局) 4月はお子さんの状況を確認できていないという要素もあって、入所しづらい状況もある。1・2か月様子を見て入所していただくという流れになっている。

委員) 保育所待機児童ゼロという話は10年以上たっても良くならないのか。

事務局) 保育所以外にもこどもの保育ができる施設があるので、そちらを選んでいただいた場合は待機にならないというのがある。説明しづらいが、なるべくご希望に添う形でやっているが、全ての方がご希望に添えているかというところという状況になんというところ。

委員) 会議で意見として出ていた点であるが、この会議のメンバーの中で解決できないことが多くなると思うので、ゆくゆくはこの会議の中に対象となる市内の機関の方々にオブザーバーという形で出席いただければ。まちづくりや都市計画なども。何年かかけて継続的に考えながら、限られた予算の中で進んでいくという状況にあると思うが、いただいたご意見に対して、何か反映ができるようなことをしていないと、こういう会議体を持ったとしても無力ということになりかねないと思う。実際の子ども達、お母さん達の声をいただきながら進める会議であればなおさらのこと。こちらとしても様々な方のサポートを受けながら進めることができればいいのではないかと。圧倒的に何か足りない状況であるのはみんなわかっていると思うので、それに全部応えるのではなく、考えながら何が可能性があるのか、具体的な部分で声をもらいながら進めていくと形が見えてくるのではないかと。ご意見をいただけるうちがチャンスだと思うので、それに応えられる取組みをしたいと思う。

会長) 情報共有プラス具体的な施策にどう関わっていくのかという組織づくり。その辺がスタートに立つにあたって大事かと思うのでよろしくお願いしたい。

会長) これを読んでいて気付いたのは、父親の関わり。父子家庭の方もいらっしゃる。お父さんの部分が欠けていたということもあったかもしれない。計画がスタートしていく中でこの辺も考えていただけたらと思う。

委員) 職員の過不足について、将来的に職員が足りているのか、足りていないのか教えていただきたい。

事務局) 受け入れる体制というのが一番の課題。我々もここまでやりたいが、その体制がとれるのかというのが、いつもジレンマとして持っている状況にある。放課後児童クラブを利用できるかどうか不安というご意見はそういったこと。保育所入所の関係については、小学校に上がってしまうと点数の加算が得られないという部分は、内部での検討で改善していくことができる部分であるので、こういったことには対応していきつつ、体制の強化に努めてまいりたい。現実として人の不足は慢性的に発生している。

委員) 人口減少の中、共働きが増えていくということで厳しい状況になると思うので、身の丈に合った実行というのが必要だと思う。夢ばかりを語ってもどうしようもないこともあり、抑えた考え方もの必要だと思うので、検討をお願いしたい。

3. 協 議

(1) 滝川市こども計画(案)について

＜事務局より資料2に基づき説明 以下要旨＞

●素案からの修正・変更点を中心に説明する。

●第2章では、「第2期子ども・子育て支援事業計画の評価」の部分について、実績の精査をすすめ、未記入があった部分も記載した。

●第4章では、重点政策の内容を明記した。

●官民連携による「こどもの居場所」づくりについては、地域おこし協力隊を活用し、この隊員の得意とする「地域内外の人とのつながり」により、こどもの望む居場所を支える大人たちを集めていく形で、事業を実施していきたいと考えている。

●母親のためのサードプレイス創造事業については、一の坂地域子育て支援センターを滝川ふれ愛の里に移転し、より敷居の低い・開放的な環境とした上で、ふれ愛の里施設内に、子育て支援センターとは別に、「コミュニティスペース」「リフレッシュスペース」を設置することで、母親のレスパイトケア事業を進めていきたいと考えている。

●こども家庭センターについては、母子保健と児童福祉を統合した一つの組織を設置し、両方の機能について、十分な知識を有する統括支援員を中心とした専門職員グループで、妊娠期から子育てまでの伴走型支援を行う。また、「子育て施設複合化施設」の整備に向け、複合化による機能面でのメリットおよび財源対策の最大化に向けた取り組みに着手する。

●こども誰でも通園制度については、現行の一時的保育事業をベースに令和7年度から試行していくとともに、この会議の政策調査研究部会を中心に調査研究を深め、「幼稚園・保育所一斉開放Day」をはじめとした、未就園児の幼稚園・保育所との接点づくりを進めていきたい。

●基本目標5の中に、「奨学金返還支援補助金」を追加した。

●第5章においても、見込み量・確保量の精査を行い、未記入だった数値の記載をした。

●前回の会議でご指摘をいただいた部分については、用語解説を随所に加えたほか、「こども」の表記を法律や固有名詞、引用部分を除き、ひらがなの「こども」に統一した。

委 員) 奨学金返済支援については、どの程度のことを考えているのか。

事務局) 具体的なことは現在説明しづらい状況にある。

委 員) 先進地ではどのような内容となっているのか。

事務局) 市として継続的に確保したい資格職に対する支援をはじめ、民間企業であっても地元就職に結びつけるためのものなどがある。滝川市では一般企業も含めた地元での雇用の拡大に向け、若者の雇用をしたいというのが趣旨である。全国には様々な例があると思う。

委 員) これを企業としてやりたいと考えたとき、税金の問題がある。本人に会社が代わりに払ってあげるときは税金がかかるというのが問題。

事務局) 制度設計についてはこの後確認したい。

委 員) 病児・病後児保育について、私立幼稚園の子が使えないということで、同じ市民で幼稚園の保護者にも働いているお母さんがいるので、不公平感がある。間口を広げるなど、今後検討すべきと思う。

事務局) 保育所と幼稚園で区切る理由がないというのはおっしゃるとおりなので、制度設計も含めて前向きに検討したい。

会 長) ほかにご意見等はないか。なければこの計画案を了承することとして良いか。

委 員) ボリュームが多いので、どれとどれを結びつけたら良いか考えているところであるが、一の坂地域子育て支援センターの移転については、サテライトにした方が良いのではないか。住環境に近いところに窓口となるスペースを設けて、レスパイトスポットとしてふれ愛の里を活用というのはあると思うが、あまりにも住環境から離れているので、助けが必要な方がまず最初に飛び込むべき場所があった方が良いと思う。有効活用するというのは確かにそのとおりだと思うが、実際に設置したら活用率が低かったとなりかねない気がする。狭いコンパスの中で描いた方が良いと思うし、待機児童の質問もあったが、まちなかの方でお子さんの保育所となった時に江部乙が空いていると言われてもそこまで行くことに支障が発生して待機になってしまったりとか、問題が発生してしまうことがあると思う。移転すると言い切ってしまうていいのか。例としておいて、よりよい場所が発見された段階で構築できるような状況をつくってあげたら良いのでは。計画が成案となると、これに基づいて進みますというのが大前提になるので、この会議の中でどんどん意見を出して行って、膨らましていっても良いと思った。そういったことを含んでいただいてこの計画の了承という意味では了承します。

事務局) 計画は計画として、1つでも2つでも実現していくことも我々は重要だと思っている。このような中で体制という部分が慢性的な課題であり、一の坂・花月・ふれ愛の里の全てがあることはベストではあるが、ふれ愛の里という空間でどういうニーズがあるのか、どういう雰囲気になるのか、これはやってみたいと思う。やってみた上で形を変えていくというということに進めていきたい。一の坂に、まちなかに欲しいというニーズについては、花月で対応していく方向でいきたいと思っている。まちなかと開放的な空間での展開の2つのパターンで、現行体制でまずモールスタートをしてみて、ニーズがあればその部分を拡大していくということもしていかなければならない。委員会で膨らませていくという要素は含みながら、ここについては進めさせていただきたい。

会 長) 再度確認する。承認することによって良いか。

会 長) それでは、このこども計画案を承認することとする。

4. その他

<事務局>

・今年度の審議はこれで終了となる。委員のみなさんの任期は令和7年12月までで、来年度も1回この会議を開催する。恐らく年度の後半の開催となるため、現在の委員での開催となるかはわからない。

<事務局>

・今年度6回の会議の開催において、精力的な審議を行っていただき、みなさんの様々なご意見により、この計画が成案となったことに感謝申し上げます。政策調査研究部会でも精力的な調査・研究をしていただいたことは、この計画の大きな礎になった。ただ、この計画は策定したら終わりではない。この地域や国などの様々な流れに合った計画の見直しや実施を心がけていくので、引き続き、ご協力をいただきたい。

	<委員> ・この計画のもとにアクションプランを策定して実行していくということか。 <事務局> ・アクションプランをつくるというよりは、常に調査研究を続けていきたい。必要に応じて計画を見直していく。 <委員> ・商売人として、やはり人材不足に悩まされている。人材確保のためにも子育て支援が充実しているからお母さんが働けるといったところも意識していただけるとアドバンテージになってくると思う。そこを意識してやっていただけると、我々もそれにのっかって、「我々はここを引き受けましょう」となる。そう思っているので、意識して進めていただきたい。 <事務局> ・女性の社会進出や男性の家庭での役割など、バランスをとっていく時代だと考えている。企業さんとの連携についても進めてみたいと思っているので、よろしくお願いしたい。 <委員> ・根幹となる働くお母さんを受け入れる施設の維持も大事。地域でこの人材を育む機関が国学院大学のみになってしまう。人材不足が否めない状況の中で教育に携わる人を育成していくというのもキーワードになる。また、その人も家庭を持っているので、その人達が安心して働ける環境も関わってくる。いろんな立場の人がそこにいて、持ちつ持たれつでやっていく。そういったことも含めて子育てしやすいまちである。子育てに有用な制度、そういう取組みが必要。私は背伸びしても良いので、夢を見て、こうなったら良いというような、みんなが意見を出していくようになれば、子育てしている人たちに対してまちが力になれると思う。今後も声を出せる立場として参加していきたい。 <会長> ・それぞれのお立場で幅広い視点からのご意見により、とてもいい計画ができた。お礼申し上げる。また、政策調査研究部会のみなさまは、いろんな施設をまわっていただきながら、具体化するところでご尽力をいただいた。事務局のみなさんには、期間がない中でいろんな意見をまとめていただきながら、いい計画をまとめていただいた。みなさまに感謝する。ただ、これはスタートラインということで、これからゴールに向かってどのような走りができるかということを、委員のみなさまには今後も委員の立場でご意見をいただきたい。また任期が過ぎた後も、市民の立場で見守っていただきたい。この計画がしっかりと進んでいくことを楽しみにしながら、次年度以降過ごしていきたいと思う。スタートしてからが大事。しっかりと評価して、改善を行っていただくようお願いしたい。 4. 閉 会
会議資料	資料 令和6年度第6回 滝川市子ども・子育て会議資料